

## ニュースレター

発行：高知県合同輸血療法委員会



### ニュースレターの発刊にあたって

高知県合同輸血療法委員会は、県内6つの医療機関、高知県赤十字血液センター、高知県医師会、高知県によって、平成21年度に設置されました。

設置の目的は、「血液製剤の適正使用の推進」であり、委員会活動を通して血液製剤の需給状況や使用状況を分析・評価し、情報を共有することにより、血液製剤の適正使用を図ることにあります。

より多くの医療機関の皆様へ、県内の血液製剤使用状況等を知っていただき、県内全体で血液製剤の適正使用を推進するため、この度「高知県合同輸血療法委員会ニュースレター」発刊することとなりました。

皆様方には、引き続き血液製剤の適正使用にご協力をお願いいたします。

### 第2回高知県合同輸血療法委員会 開催報告

日時 平成28年12月10日(土) 10:30~12:00

場所 高知大学医学部附属病院 検査部カンファレンス室

今回の委員会では、当委員会の活動及び県内の血液製剤使用事情を県内のより多くの医療機関に知っていただくため、ニュースレターを発刊することが決定いたしました。さらに、今後の取組の方向性として、県東部、西部での講演会の開催や、輸血後感染症検査の実施状況の把握について、また、委員増員に関する提案がなされ、検討事項について話し合いが行われました。

報告事項では、血液製剤適正使用のご協力について及び輸血後感染症検査へのご協力についての記事が医師会報へ掲載となり、周知を促している旨の報告がありました。

### 活動報告

### 輸血後感染症検査の依頼について

当委員会の取組みの1つとして、「輸血後感染症検査」を推進するため、「輸血後感染症検査のご依頼」の参考様式を平成26年度に作成しました。

当委員会で作成しております様式は、輸血を受けた患者様が退院した2~3カ月後に、別の医療機関にて感染症検査を受けていただく際に利用する様式となっております。

輸血を実施した医療機関が、輸血の種類や輸血の実施日等を記入後、退院する患者様に渡し、2~3カ月後に医療機関へこの様式を持参し、検査を受けるよう促します。

患者様からこの様式を受け取った医療機関は、輸血後感染症検査を実施し、その後、検査結果をこの様式に記入し、輸血を実施した医療機関に返信する流れとなっております。

詳しくは、高知県 医事業務課ホームページに掲載しております。

# 「高知県における輸血医療の現状」

高知県赤十字血液センター

## 1. 血液製剤の供給状況

全国における年度別上位5県の赤血球製剤供給本数(人口1000人当たり)

上位	'11年度	'12年度	'13年度	'14年度	'15年度
1位	北海道(73.6)	北海道(73.8)	北海道(72.4)	北海道(72.1)	北海道(71.2)
2位	和歌山(63.9)	福井(61.24)	福井(61.3)	高知(61.1)	大阪(60.5)
3位	高知(60.8)	高知(61.15)	大阪(60.0)	大阪(59.8)	青森(59.3)
4位	京都(60.3)	大阪(60.6)	高知(59.7)	福井(59.2)	福島(58.2)
5位	大阪(60.2)	山口(59.4)	山口(59.3)	和歌山(58.3)	高知(57.5)
全国平均	52.1	52.1	50.7	50.5	50.5

近年、高知県における人口当たりの赤血球製剤の供給量は常に上位となっています。どうして、供給量が多いのでしょうか？高齢化の影響？高齢化率の高い県で比較してみましょう。

## 2. 高齢化県における血液製剤の供給状況

2016年1月1日住民基本台帳人口に基づき算出

上位	都道府県	人口	高齢化率	'15年度
1位	秋田	約104万人	33.3%	48.7 (27位)
2位	高知	約74万人	32.5%	57.5 (5位)
3位	島根	約70万人	32.0%	38.2 (46位)

高知県の高齢化率は全国2位と高いですが、高齢化率の高い秋田県・島根県における赤血球製剤の供給量は、全国平均(50.5)以下となっています。

同じ高齢化県なのにどうしてこのように異なるのでしょうか？

## 3. 人口10万人当たりの病床数(一般病院)および輸血実施施設数

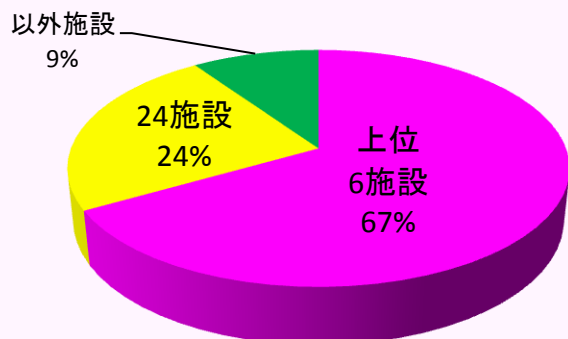
都道府県	人口当たりの病床数*	輸血実施施設数**
秋田	1,500	94
高知	2,473	150
島根	1,574	58

\* 「平成25年医療施設調査」

\*\* 平成24年度血液製剤使用実態調査

高知県は人口当たりの病床数が多いことがわかります。県人口差の少ない島根県と比較すると、病床数は約1.8倍、輸血実施施設数は約2.6倍にもなります。このことが供給量に影響を及ぼしている可能性があります。ただし、全ての都道府県がこの傾向と一致する訳ではないことから、高齢化率・人口当たりの病院数・機能別病床数・地域特性などの要因が複合的に影響しているものと考えられます。

## 4. 高知県における赤血球製剤供給割合



高知県内の上位6施設で全体の67%、30施設で91%を占めます。残り9%の供給量に対し約100~120の施設で輸血が行われています。輸血量の多少にかかわらず、安全かつ適正な管理体制が求められています。

## 5. 高知県における輸血関連団体

団体	高知県合同輸血療法委員会	高知県輸血・細胞治療研究会
対象	主要6施設 高知県医師会	県内医療従事者
形式	会議	講演・シンポジウム
内容	安全かつ適正な輸血医療の推進	
理想	多くの施設の参加	多くの医療従事者の参加

他院の状況等も把握することで、施設間で切磋琢磨し、常に輸血医療の向上を図っていくことが重要と考えられます。